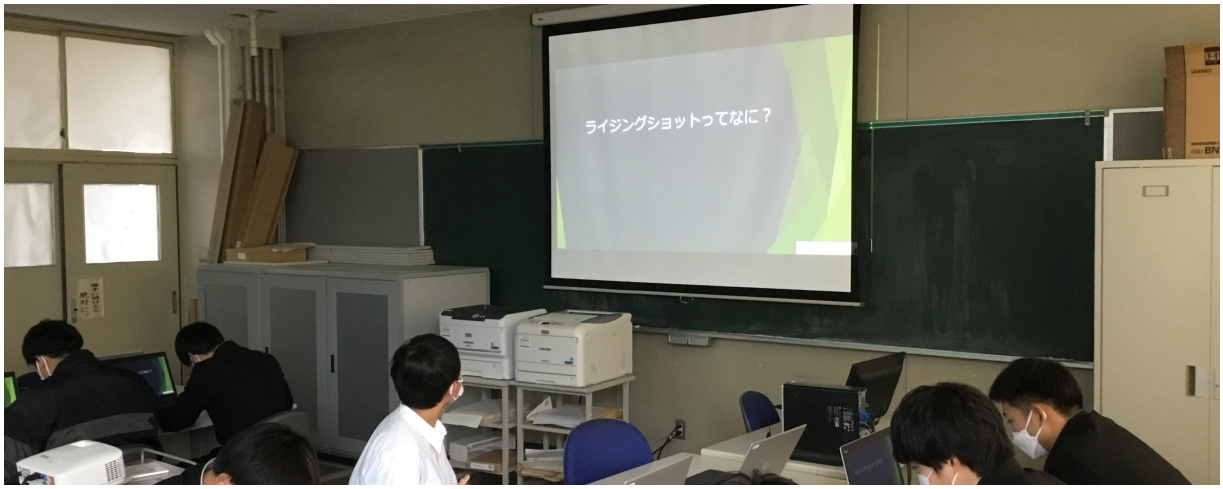
令和３年度体育科　卒業論文発表会

12 月 16 日（木）体育科３年生が、スポーツ総合演習で３年間かけて取り組んだ卒業論文の発表会が行われました。体育部長の佐藤孝夫先生は「自分たちの活動の是非を論理的に伝える貴重な機会」と卒業論文の価値を体育科に浸透させてきました。授業の総まとめとして「**進化・深化**」をテーマに体育科が一体となって卒業論文に取り組んできました。

卒業論文作成は、平成 5 年(1993 年）から始まり、今年で(2021 年）で **29** 年目を迎えました。平成 29 年（2017 年）からは、体育科として卒業論文発表会が行われ、 3 年生の発表を１．2 年生が聞く機会も設けられるようになりました。3 年全員がクラスごとに発表会を行い、その中でも特に優秀な発表者 13 人によりパワーポイントを使ってのプレゼンテーション形式で研究発表を行いました。 1、2 年生も、先輩方の専門種目の研究分析や、発表レベルの高さに驚きながら、発表を聞き入っていました。

12 月 8 日（水）に行われた 2 年生体育科独自の探究学習発表会（スポーツの知識や実践に関する課題研究）も素晴らしい内容でした。来年の質の高さ(卒業論文)を感じさせる時間でした。1 年生の時には、カメラワーク、画像の取り込み・加工などの基礎基本を学び、卒業論文の土台になる部分を学習します。3 年間のスポーツ総合演習の「つながり」が年々レベルアップしており、「ポストべにばな」の課題という位置付けでスタートした卒業論文が、山形中央高校体育科の歴史と伝統を引き継ぐ確固たる形になってきたと思います。『十年偉大なり。二十年畏るべし。三十年にして歴史になる。』継続の大切さを説いた中国の格言です。

【３年生全員によるクラスごと発表会】



【卒業論文発表会】

卒業論文発表会

サッカーのセンタリング
に対するFWの動き方
卒業論文発表会

卒業論文発表会

卒業論文発表会
KIC

先日の２年生体育科キャリア教育の講師で来られた能勢康史先生は「脳の劣化と体の優位」というコラムの中で、『今の若者をみていて感じることですが、それは考える（感じる）力が劣り、パターン思考に陥っているという傾向です。野球界では社会人野球で数年経過している選手でも野球技術（試合の流れや読み）や動作感覚のレベルが低下しています。これは感性の劣化で人間脳（大脳新皮質）を使わずに動物脳（大脳辺縁系）を使っている傾向があるのではないかと危機感を覚えます。選手の身体面は明らかに向上しエネルギー系のトレーニングは取り組むようになり筋力は向上しました。反面、自分の課題は何か考えて練習に取り組む選手が少なく、動作の感性が鈍く体の使い方を探求せずにただ練習をしている傾向にあります。つまり脳が劣化し身体が優位になったと言えます。これは表面しか見ないという思考で、見えない何かを見ようとせずに深く考えないという思考習慣です。スポーツを通じての人間教育という標語はあるものの、本当の人間力とは何かをもう一度深く掘り下げ実践する必要があるのではないかと思います。　・・・　解は自分で出すのです。自分で出した解を信じて突き進むことが成功への近道なのかもしれません。正しいのかどうかではなく、本気で信じ切るかどうかが大切なのではなでしょうか。』と述べています。

ご多忙中にもかかわらず、山形医療技術専門学校の杉原先生、やはぎ接骨院の矢萩先生、山形県教育庁スポーツ保健課の高橋愛先生、佐藤裕行先生、卒業論文発表会の特別審査委員をお引き受け頂き、誠にありがとうございました。高橋愛先生にはご助言まで頂きましたことに深く感謝いたしますとともに、今後ともご指導を賜りたくお願い申し上げます。

お陰様で今年も素晴らしい発表会になりました。ありがとうございます。